

P1-1 Branch atheromatous disease (BAD)における運動機能・ADL・脳卒中後うつに関する急性期の経過について

○信岡 由菜(OT)¹⁾, 徳田 和宏(PT)¹⁾, 海瀬 一也(PT)¹⁾, 藤田 敏晃(MD)²⁾

1)医療法人錦秀会 阪和記念病院 リハビリテーション部

2)医療法人錦秀会 阪和記念病院 脳神経外科

Key word : 急性期, 片麻痺, うつ状態

【はじめに】脳卒中後うつ(Post Stroke Depression : PSD)の発症率は全体の30%程度とされている。一旦PSDを発症すると、その後の急性期リハビリの進行に大きく関わり、麻痺やActivities of Daily Living (ADL)の回復にも影響を及ぼすと考えられる。そのような背景の中、脳梗塞の中にBADという病態がある。BADは穿通枝動脈起始部の粥状動脈硬化に起因する脳梗塞とされており、梅村ら(2008年)によるとBADはテント上で23%、テント下で41.7%入院後も症状が増悪すると報告されている。以上のことから、症状が変動するBADの急性期においては、身体的、精神的ストレスの与える影響が大きいと推測される。そこで、今回、BADの症状進行の有無により、身体的、精神的な変化がどのように経過するのか調査したため報告する。

【対象と方法】対象は2018年4月～10月、急性発症した脳梗塞においてBADと診断された20例。これらを入院後麻痺が進行しなかった群(13例)と進行した群(7例)に分類した。なお、症状進行の定義としては、入院後National Institutes of Health Stroke Scale (NIHSS)1点以上増悪したものとした。対象の内訳は、非麻痺進行群、麻痺進行群の順に年齢(歳)73.8 ± 14.4, 82.4 ± 8.8, 性別(男/女)5/8, 3/4, 損傷側(右/左)8/5, 2/5, 入院時NIHSS(点)4.4 ± 2.7, 4.9 ± 1.6, リハビリ開始(日)2.0 ± 1.1, 2.0 ± 0.8, 在院日数(日)31.0 ± 17.9, 38.6 ± 13.9であった。方法は、分類した2群の年齢、性別、損傷側、入院時NIHSS、リハビリ開始日、在院日数については、カイの2乗検定およびt検定を行い、介入前後におけるFMA, FIM, JSS-DについてはWilcoxonの符号付順位和検定にて比較検討を行った。なお、統計解析にはJSTATを用い、それぞれの有意水準は5%とした。また、本報告はヘルシンキ宣言を遵守した上個人情報特定できないよう十分配慮し、本研究プロトコルに関しては、当

院倫理委員会の承認(承認番号:2018-5)を得ている。

【結果】2群における背景因子の比較については有意差を認めなかった。次に、Fugl-Meyer Assessment (FMA), Functional Independence Measure (FIM), 日本脳卒中学会・脳卒中うつスケール(Japan Stroke Scale Depression Scale : JSS-D)の結果を介入前後の順に示す。非麻痺進行群ではFMA71.1 ± 50.4, 97.8 ± 42.1, FIM47.5 ± 25.5, 80.7 ± 32.0, JSS-D3.8 ± 3.6, 2.4 ± 2.4であり、全ての項目で有意差を認めた。次に、麻痺進行群ではFMA78.7 ± 34.7, 89.1 ± 43.9, FIM33.9 ± 10.3, 66.1 ± 34.6, JSS-D3.8 ± 2.8, 3.4 ± 2.9であり全ての項目で有意差を認めないという結果であった。

【考察】BADにおいては、急性期治療のため入院という環境の変化に加え、治療や早期リハビリテーションが行われているにも関わらず、症状が増悪する事例もある。麻痺進行群では機能、ADLだけでなくJSS-Dにも有意な改善を認められなかったという結果をみても、BADは脳卒中の中でも、脳損傷と心因性の与える影響が特に大きいと示唆される。よって、BADにおける急性期作業療法において、精神状態の評価やアプローチも併用し進めていく必要があるかもしれない。Johanneら(2007年)の余暇活動やTakebayashiら(2013年)のCI療法はうつに対しても有用であったとの報告があり、BADにおいて、これらの手続きを踏んだアプローチが特異的な効果を示す可能性も示唆される。

【結語】BADにおける心身機能、ADLの臨床経過を調査した。症状進行する事例の機能やADL向上のためには、精神面にも配慮したアプローチが必要となる可能性が示唆された。今後は、前向き調査及び無作為化比較試験などを用い、BADにとって有用となる介入方法を検討していきたい。